



福島県立梁川高等学校  
令和元年12月19日  
校長だより  
知性 誠実 責任  
第50号

## ■ 税について考える

令和元年度「税に関する高校生の作文」福島地区税務関係団体協議会長賞を受賞した三浦沙羅さん（1年1組）の作文を紹介します。

私は税とは何か、今まで詳しくは理解していなく、そういうものがあるんだと元々あるものとして考えてきました。

しかし、今回学校の授業で税理士の方に来ていただき、お話をお聞きして、感じたことや思ったことを書こうと思います。

まず、税の種類についてですが、私は税はだいたい二十種類くらいかなと考えていましたが、その時約五十種類、税には種類があると知り、自分が知らない税がこんなにあるのかと、驚きました。その中でも、とん税ってなんだと多数の生徒が言っており、面白い名前の税だなと興味が湧いたりしました。

次に、税金の決め方についてですが、最初に税金を決める国会議員を国民が投票で選抜し、選ばれた人たちが国会議員として税金を決定しているようですが、その国民からの信頼を裏切るような行動をする一部の人が許せません。そして、日本という国は借金額が大きいと聞きました。そこで私が考えたのは、物価を下げ、消費税を高くしたらどうかなと思いました。こんな簡単な話なら、すでに実行していると思いますが、世の中を知らない私には、こんな考えしか出ませんでした。

そして、次に考えたのは税金の在り方についてですが、税金は国民が豊かになるためがあると聞き、私は国民のことを思っている良い考えだなと感じました。確かに、道路の工事や公園を造ったりするのに、県や国の税金を使っています。国民が安全で快適な暮らしができるように、国民そのものから平等に少しずつ税金という方法で、お金を徴収する考えが一気にまとめられるし、特定の一人の負担が大きい訳でもないで、この方法を考えた人は頭が良いなと思いました。

そんな消費税も、今年の十月に十パーセントに引き上げられるらしいですが、やはり国民はこれからの生活にどんな変化があるのか不安に感じていると思います。なので、その不安を和らげる取り組みをする必要があると思います。

これから生きていく上で必ず身近についてくる税について考えることができました。

高校生が税のことを意識する機会はなかなかありません。しかし、消費税をはじめとして、世の中に出れば自分で税のことを理解して適切に納入していかなければなりません。また、18歳になれば選挙権が与えられます。三浦さんの作文にもあるように投票ができるのです。さらには20歳になると年金も納入しなければなりません。一昔前よりも、高校生のうちに勉強しておかなければならないことが増えました。どれも大切な義務や権利です。なぜこのような制度になっているのだろうと考えてみたり、調べてみたりすることは、政治への関心にもつながります。ぜひ主体的な“大人”になってほしいと思います。

## ■ スーツ着こなし講座

12月3日（火）に、3学年で講師をお招きして「スーツ着こなし講座」を行いました。



## ■ 赤い羽根共同募金

12月13日（金）に、本校の生徒会が中心となって集めた募金を伊達市社会福祉協議会に届けてきました。

## ■ 第2学期終業式「校長の話」

梁川高校は、明日から1月14日（火）まで26日間の冬休みに入ります。26日間というとはほぼ1ヶ月近くになります。28名の3年生は、まもなく社会に出て自分で働くようになります。働き方改革といっても、この時期に20日間を超える休みが取れるようになるのは、まだまだ先のことだと思われます。28名の皆さんは、どんな冬休みを過ごすのでしょうか。

2年生と1年生は、だんだんと社会に出るときが近づいているということです。社会に出ると、ゆっくりと休みを取るのとはなかなかむずかしくなります。皆さんがイメージしている以上に忙しくなります。でも、その分社会に貢献できている、世の中のために役立っている、家族のために頑張っているという思いをもつことができると思います。高校生活は、そのための大切な準備期間です。ぜひ目的や目標、ねらいをもった26日間にしてください。

最後に、学校に届いた一枚の葉書の文面を紹介します。（略）

以上で校長の話を終わります。

「一年の計は元旦にあり」と言います。転じて、「一日の計は朝にあり」とも言います。物事を始めるにあたっては、最初にきちんとした計画を立てるのが大切だということです。ただ何となく過ごす26日間と、やる事が決まっている26日間とは、充実感がだいぶ違ってきます。ちなみに、「元旦」は1月1日すなわち「元日」の朝のことです。